



# 通信

HP 学校だより  
R7.3.12  
NO. 44  
文責 伊藤美佳



## 豊坂ならではの

卒業式の練習も始まり、卒業まであと5日となりました。

そんな中、見守り隊の方が「梅を切ろうと思うけど、ほしいか」と聞いてくれました。しかし、その日は雨。申し訳なく思っていると、立派な梅の枝とたくさんの水仙やクリスマスローズを抱えて来てくださいました。雨の中、持ってきてくださったことに本当に感謝の言葉しかありません。

給食の準備をしようと1年生が近くを通りかかったとき、担任の先生が「この花知ってる？水仙って言うんだよ。春のお花だね」と言っていました。子どもたちは、「知ってる。図鑑で見たことある」とか「家に咲いてる」などと口々に答えていました。季節を感じながら学校生活を送れる豊坂っ子は幸せだと感じました。

また、今週、お昼の放送で豊坂小学校に通う外国籍の子どもたちが自分の国について紹介した動画を作成し放映しています。行ったことのない国でも、豊坂小学校に通っている子どもたちの故郷だと知ると不思議と親近感を覚えます。



## 「手入れ」の文化

4年生が西山の整備やアジサイの挿し木を育て始めて4年になります。その間、整備隊の方々から、そのまま木や竹を伸び放題にしておくと、生育が悪くなり、山が死んでしまうという「山の手入れ」についてのお話を聞きました。「手を入れる」ことで、よりよい木材を育てるだけでなく、山が水を蓄えてくれて、土砂災害などから守ってくれるというのです。

月曜日にボランティアの方が松の木の剪定に来てくださいました。剪定してもらった松と剪定していない伸び放題の松の違いは一目瞭然です。剪定することは「手入れ」と同じで、伸び放題になっている松の葉を精選することで、どの葉にも光が当たるようにしてるのだと学びました。



一枝一枝状態を見て、切る枝、切らない枝を見極めてから剪定するところを見て、教育と同じだと感じました。一人一人の伸ばすべき良さ、改善すべき課題を見つけて成長させることの大切さを実感し、これからの豊坂っ子の成長につなげていければと思います。